



# MORIOKA YMCA NEWS

## 盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切にし、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

## 2017年3月号



発行人：濱塚有史 編集人：君塚彩 発行所：特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通8-1-1  
TEL 019 (623) 1575 e-mail: info@moriokaymca.org URL: <http://www.ymcajapan.org/morioka/>



## 「みんなへ」

安久津 里彩 (盛岡大学4年・あさりリーダー)

「生まれた時を0、死んだ時を100とすると、人生は笑っているときと泣いているとき、どっちが多いと思う？」私が参加したあるキャンプの朝の集いで、担当者が話してくれた「良い話」である。YMCAのキャンプでは、プログラム後にリーダーが子どもたちに向けて、伝えたいことを話す時間がある。私は今までたくさんのリーダーたちの「良い話」を聴いてきた。例えば、いじめに関すること、名前のお大切さ、仲間の大切さ、人との出会いについて…どれも感慨深かった。その中で私を前向きにさせてくれたのが、冒頭に記した話である。当時の子どもたちの反応は、私と同じで「泣いている時の方が多い。理由は悲しい時の経験はすぐ思い出せるから。」というものが多かった。

私は盛岡YMCAで、沢山の経験をさせてもらった。先輩たちの背中を必死で追いかけ、スタッフの皆さんには何度でもチャレンジできる環境を与えてもらい、子どもたちや様々な活動に全力で向き合ってもらった。学年があがるにつれて、今までとは違うものを感じながらの日々が増えた。自分は無力で、ただ頑張ることしかできないという情けなさを痛感し、自分の嫌なところばかりが見えてくる。自分自身と向き合う、ということはどういうことなのか。盛岡YMCAに入ってから改めて考えさせられることがたくさんあった。しかし、楽しいことも教え

きれないほどある。活動で子どもたちと全力であそぶことや楽しいことを考えること。またキャンプ後のわずかな体力を絞って騒いだり、コントを追究してみたり等、みんなと一緒にいる時間が楽しくて、そして何よりお互いのことを知っていく時間でもあった。素の姿を引き出すのが上手な人、誰も見ていない視点から物事を見ている人、気分屋だけど何かあったときは力になってくれる人、私という人は周りに助けられて今があるのだと思う。

「人生は、笑っているときの方が多んだよ。」これが、この話の正解だ。これから死ぬまで何が起こるか分からないが、笑っている方が多ければ、今後も前向きに歩いていける。盛岡YMCAを卒業するのは寂しい。しかし、場所は違えども、目の前の子どもたちを一番に考えて行動することは今後も変わらない。私が今まで皆さんに助けられ、得てきたものを、今度はこれから出会う子どもたちや、その周囲の人々のために尽くせる人になりたい。



# ☆日帰りスキー教室☆

1月15日・1月22日の2度にわたり、八幡平リゾートスキー場にて、1月アドベンチャークラブ「日帰りスキー教室」が行われました。15日の活動に参加したますおリーダーこと東海林俊一さんより、当日の様子についてのレポートが届いています。



こんにちは！盛岡大学4年の東海林俊一です。リーダー名はますおです。

1月15日の日帰りスキーに参加させていただきました。1月には日帰りスキーが2回行われております。どちらも、たくさんの子が遊びにきてくれました。そのおかげで、とても楽しい活動を行うことができました。ありがとうございます。私は、スキー教室で子どもたちの技術向上も、もちろん目標の一つとして活動しています。しかし、それだけでなくグループのみんなで、何かをする楽しさを感じてもらえることを目標に、常に活動しています。今回も、子どもたちは、グループの友達と関わる中で、とても素敵な笑顔をたくさん見せてくれました。少しは、私が目指している活動になることができたのではないかと思います。

私は、1回目の日帰りスキーに参加させていただいたのですが、子どもたちが解散をした後に、「来週もスキー行きたい！」といったことをご

両親に伝えている姿が見られて、とてもうれしかったです。スキー教室を行っている団体は、他にもたくさんあると思います。その中でもYMCAを選んでくれるというのは、とてもありがたいことです。そのような環境の中で、なぜYMCAの活動を子どもたちが選んでくれるのかをもっと突き詰めていきYMCAの良さをさらに伸ばしていきたいと思えます。また、スキー教室なので、今以上に良い活動にしていきたいためには、リーダー自身のスキー技術・指導力の向上も必要なことの1つだと思います。そういったところも練習や勉強を怠らず、さらに伸ばしていきたいと思えます。今回の活動よりも次回の活動がよりいいものになるように、リーダーも努力していきます。

3月にはスプリングスキーキャンプもあるので、ぜひ参加していただきたいと思えます。

盛岡大学4年 東海林 俊一 (ますおリーダー)



リーダーとのスキー教室は笑顔いっぱい！楽しみながスキーの技術を身につけていきます。



腹が減ってはスキーができません！とばかりに、大きなお口でお昼ごはんのカレーをパクリ！



めいっぱい雪の上を楽しみました。またみんなでスキーしようね！

## いじめなくそう！ピンクシャツデー！

2月の最終水曜日は、「いじめをなくそう」という日を新たに作る日、ピンクシャツデー。盛岡YMCAでピンクシャツデーの取り組みを行うのは3回目となります。今年も、2月22日のピンクシャツデーに合わせ、様々な取り組みを行いました。

今年も、盛岡YMCAではピンクシャツデーの取り組みを行いました。ピンクシャツデーとは、2007年に生まれた、ピンクの服や小物などを身につけて「いじめ反対」を訴える日のことです。ピンクシャツデーが生まれた背景には、次のようなエピソードがあります。

2007年のカナダにて、ピンクのシャツを着て登校した少年が、ゲイだといじめられました。それを見た2人の学生が、50枚のピンクのシャツを友人・知人に配り、毎日登校します。学校では呼びかけに賛同した多くの生徒がピンクのTシャツを着て登校。学校中がピンクに染まり、いじめが自然となくなったそうです。そのエピソードがSNS等で世界中に広まり、今では70カ国以上でいじめに対する活動が行われています。カナダでは毎年2月の最終水曜日がピンクシャツデーとして定められ、いじめについて考え、行動を起こす大切な日となったのです。



盛岡YMCAの学童保育各校でもそれぞれいじめに対して考える機会を設けました。ぶらいむ・たいむ前潟校では、いじめに対しての様々な思いや考えを、ピンクのハートをかたどった紙に書きだし、模造紙に貼って共有しました。この取り組みに際し、子どもたちだけでなく、スタッフや、保護者の皆さんからも「いじめ」に対するたくさんの意見が寄せられました。この取り組みを通し、いじめは絶対になくしていくべきもの、という気持ちを新たにすることができました。

ぶらいむ・たいむ向中野校では、22日のピンクシャツデーに先駆け、20日の活動を行いました。20日はテーマ①「どんなことをされたいや?」、21日はテーマ②「いやなおもいをする子がへるには?自分には何が出来るか考えてみよう。」というテーマでピンクの画用紙にそれぞれの想いを書き、貼っていきました。22日は、テーマ①、②でまだ書きた



い子を書いたり、他の人の文章を読んでみて同じ思いの人の紙にシールをはるといった時間をとりました。これらの活動は、「いじめについて自分なりに関心を持ち、考える」「他の人たちのいじめに対する考え・想いに触れる」といった機会となりました。



ぶらいむ・たいむ本町校では、盛岡市内で活動している読み聞かせ隊の方にお越しいただき、いじめについて扱った絵本の読み聞かせを行って頂きました。いつもやんちゃな本町校の子どもたちも、この日は真剣な様子で読み聞かせに聞き入っていました。この日は、岩手めんこいテレビさんが取材にお越し下さり、ピンクシャツデーということでピンクのマスコットキャラクター「ミットくん」も遊びにきてくれました。盛岡YMCAのいじめに対する活動を広く知っていただくきっかけとなったのではないかと感じています。

学童保育だけではなく、この日に行われた水泳教室やサッカー教室においても、ピンクの服を着たり、ピンクの小物を身につけたりなどして参加してくれた子どもたちがたくさんいました。また、盛岡YMCAのFacebookページに、ピンクの服を身につけた写真をお送りくださった方もいらっしゃいました。ピンクシャツデーの活動が徐々に盛岡YMCAにかかわる方々に浸透してきていることを感じ、嬉しく、また心強く感じています。いじめをなくすまでの道のりは簡単なものではないのかもしれませんが、この日をひとつのきっかけとして、いじめをなくすという「心」を浸透させていきたい、と盛岡YMCAは考えています。これからも、いじめのない平和な社会を作るため、盛岡YMCAは活動を続けていきます。



# 盛岡YMCA宮古ボランティアセンター 2月報告書

## ☆2月のアドベンチャーは、凧揚げ！

2月のアドベンチャークラブの活動について、チョップリーダーこと、インターン生の川口奈恵さんより、レポートが届いています。



2月5日(日)に行われた宮古アドベンチャーについて、私チョップが報告します！今回の宮古アドベンチャーはぐるぐる凧作りとその凧揚げを行いました！宮古の子どもたち16人と、盛岡からの7人のリーダーと宮古市現地の社会人ボランティア2人、そして東京の学生YMCAから3人のリーダーが参加しました。

当日は少し肌寒い中のアドベンチャーとなりましたが、空は真っ青に晴れ渡り、まさに凧揚げ日和でした。

バスに1時間ほど揺られ、到着したのは山田町の岩手県立陸中海岸青少年の家(マリランド陸中)。広い部屋でグループに分かれて凧を作ります。子どもの体ほどあるビニールと竹ひご、そしてカラフルなカラーテープを使って、思い思いの凧が出来上がっていきます。凧のビニール部分には好きな文字や絵も書くことができ、凧一つひとつから子どもたちの個性を感じま



した。グループごとに楽しくお弁当を食べてから、ついに外に出て凧揚げをしました。最初は中々上手に凧を揚げられない子も、他の人のまねをしたり、リーダーに教えてもらったりして、みんなうまく揚げられていました。凧を安定した風に乗せるまでは全力で走り込まなければならぬため、息切れしている人もちらほら。中には、タコ糸を目いっぱい伸ばして天高く揚げる強者も現れ、あちこちから歓声の音が上がっていました！その内、氷鬼が始まりたくさんの子どもとリーダーを巻き込んでの遊びになりました。凧揚げに夢中になっている子と氷鬼に熱中している子、どちらもとっても楽しそうに見えました。

室内に戻り、東京の学生YMCAのダンジョーリーダーが「パピペボ星人」になって、質問に答えるコーナーもあり、盛り上がりを見せました。

帰りのバスではグループ内のリーダーやお友達とお菓子交換をしたり、おしゃべりしたりであっという間に解散場所へつきました。帰り際の子どもたちの笑顔から、沢山遊んで満足できた活動になったのではないかと感じました。

岩手県立大学4年 川口 奈恵(チョップリーダー)

## インドでゴリナも考えた。⑪

ゴリナリーダーによる連載も、今回が最終回。最後を締めくくるのは、「慣れ」と「出会い」のお話です。

「今日の晩御飯だよ！」スレッシュは笑顔で私たちに言った。目の前で生きた鶏をカットしていく。初めて見た光景だった。暴れる鶏をよそに、「チキンは好きか」と聞いてくる。日本では感じるこのできない一コマだ。

「生きてる！」そうした新鮮な一コマの連続は、今まで日本では感じたことのないほど、生きている感覚を与えてくれた。だが、帰国してから一年が経った。あっという間に日本の文化、習慣、生活に入り込んでいく自分にとっても違和感があった。日本でもこうして生きているはずなのに、インドにいた時よりも実感が湧かない。



「慣れ」は新鮮さを奪う。インドでは何もかもが新鮮だった。異なる言語、街のにおい、トイレの使い方、秩序のない道路、多様な宗教の混在、自由な動物たち。インドに着いてから、驚きの連続だった。知れば知るほど、新しい疑問が生まれ、知りつくせないほどだった。まるで自分が何も知らない生まれたての赤ちゃんにでもなった気分だった。

だが、一週間もすると、インドの人や生活に慣れ始めてきた自分がいた。カーチェイスのようにとばす車、街を歩く牛やヤギ。時がたち、初めは新鮮だったものが、私の中で「当たり前」になっていた。物乞いをする人に初めて出会ったときは、どのように対応して良いのか分からなかった

が、何度も会うたびに、自然と無視をする自分に驚いた。

インドの習慣に慣れることは良い面もあれば、悪い面もある。ポイ捨てなどは改善していかなければならない習慣だ。物乞いをする人々に関してもそうである。だが、これは日本でも言えることなのだろう。すでに「当たり前」となってしまう私たちの生活を見直していきたいと思った。きっとインドの人が日本に来たら、喫煙者の数に驚くのだろう。インドでは喫煙者はほとんどいないようだ。人と同じように、国それぞれにも異なる過去があり、性格がある。良い面は高め合い、悪い面は改善していけるよう協力し合えたらどんなにいいだろうと思った。

また、物や習慣だけではなく、人との関わりの上でも「当たり前」と思い込んでしまっていることがたくさんあるのではないかと感じた。私はインドの人たちがこんなに、人懐っこくて暖かい人たちだと知らな

かった。どこにいても知らない人でも、一瞬で友達になってしまうような人たち。その中でいつも一緒にいてくれ、インドを案内してくれたスレッシュとはたくさん話をした。別れの時には「人生」の話もした。普段ジョークを言ってキャンパーにたくさん笑顔を与えてくれたスレッシュ。そんなスレッシュのモットーは「小さく、弱い子どもたちと共に生きること。」そこに、とても強い信念を感じた。

インドで出会ったスレッシュや石谷さん、子どもたち、マザーテresaのランチに住む人たちなど、本当に様々な人に、たくさんの気づきや学びを与えてもらった。また、話したり、遊ぶことで、嬉しかったり、悲しかったり、楽しかったり。たくさん感情を共有できたことは、お互いの距離が少し縮まっていくようにも思えた。みんなに出会えたことを心から感謝している。

だが、きっとこうした出会いは日本でも日常茶飯事なのだろうと思う。話をしたり、遊んだり、一緒に働いたりする中で、様々な感情を共有するたびに、きっと人と人との距離は縮まっていくのだろう。そしてそのつながりには終わりはなく、縮んだと思ったら、遠くなったりもする。

私は、日本での暮らしの中で関わっている人たちと出会い直してみたいと思った。今自分の目の前にいる人と出会い直したい。人との関わりには終わりはない。今ある関係で満足することなく、いつでも新鮮な気持ちで、その人たちと関わっていきたくと思った。あの人はこういった性格だからと、それが「当たり前」にならないよう、いつでも新しい発見をお互いに見いだせたらいい。家族、友人、子どもたち、たくさんの人と、出会い直し、新しい発見や「当たり前」を「当たり前」と思わない、そんな習慣を身につけていきたい。

インドに来て、いつだったか、知れば知るほど疑問が生まれ、この異国の地や人々を理解することが絶望的に思えたことがあった。それでも理解し続けることが大事だと、奮い立たせ必死に動いた。その時の気持ちや、必死さを忘れず、日本の生活に戻った今、たくさん物、習慣、人と、出会い直していきたいと思う。今回インドスタディキャンプに参加できたことを心から感謝している。

岩手大学4年 武田 悠(ゴリナリーダー)



# 3月の予定

- ★3月15日 (水)  
水曜水泳Ⅲ期終了  
盛南スクールⅢ期終了
- ★3月16日 (木)  
高松スクールⅢ期終了  
向中野スクールⅢ期終了
- ★3月17日 (金)  
金曜水泳Ⅲ期終了  
篠木スクールⅢ期終了  
盛北スクールⅢ期終了
- ★3月18日 (土)  
本町スクールⅢ期終了
- ★3月19日 (日)  
サンデースクール  
「インドカレー作り」
- ★3月20日 (月・祝)  
土淵スクールⅢ期終了  
月曜水泳Ⅲ期終了
- ★3月20日 (月・祝)  
土淵スクールⅢ期終了  
月曜水泳Ⅲ期終了
- ★3月29日 (水)～31日 (金)  
スプリングスキーキャンプ  
(於：安比高原スキー場)



# 君でいいんだよ ～JUST THE WAY "YOU" ARE ㊟～

## 『未来へのパス』



「何と言ったら良いのだろうか？」学生リーダーと会話をしていると、よく耳にする言葉だ。どちらかというところ、4年生のベテランのリーダーが口にする事が多いように思える。YMCAの活動を通して子ども達はもちろん、リーダー同士やスタッフ、保護者の皆さんなど、様々な人たちとの関わりの中で自分の伝えたいことが思うように伝わらないもどかしさを数多く経験してきたからなのだろう。

毎週、火曜日の宮古でのサッカー教室には、2、3名の学生リーダーや、リーダーOB、OGが参加してくれている。ある日パスの練習をしている時、指導しているリーダーが子ども達にこんなことを話していた。

「パスは、今その人のいる場所に出してあげても、その人は、止まったままでしょう。」

「自分がパスを出したいその人が走るであろう方向を予想してパスを出すんだ。あるいは、自分が

パスを出したい方向がその人に伝わることを念じてパスを出すんだ。」

「その人の未来に向かってパスを出してあげるんだ。」

リーダー本人が考え出した言葉ではないかもしれない。もしかしら先輩のリーダーやスタッフからの受け売りかも知れない。しかし、思いが伝わらないもどかしさを数多く乗り越えてきた百戦錬磨のリーダーのこの一言が妙に心に残った。なにより、小学1、2年生を相手にこんな哲学的な言葉を真剣に伝えている姿が「カッコイイな」と思った。

僕たち大人も、今、目の前にいるその人を見てああだ、こうだと言うのではなく、その人の成長を信じてその人の未来へ向かって言葉をかけていけるようになりたい。

「万物は言(ことば)によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。」

(新共同訳聖書 ヨハネによる福音書1章：3節4節)

盛岡YMCA総主事 濱塚有史

## リーダー紹介コーナー！

すっかり恒例となりました、リーダー紹介コーナー。今回は、ニョッキリーダーによるキューピーリーダーの紹介です！

こんにちは！盛岡大学短期大学部幼児教育科1年の渥美百恵です！リーダー名はニョッキで活動しています！冬のうちはなかなか活動に参加できていませんが、普段はサッカーやアドベンチャーなどで活動しています！

今回私が紹介するのは、岩手大学理工学部1年の小野史織、キューピーリーダーです！伸ばす棒が多くて厄介な名前ですね(笑)

まずは「キューピー3つの秘密」をお教えいたします！！1つ目はリーダー名。天使のキューピーではなく、マヨネーズのキューピーです！由来は、キューピーリーダーがマヨネーズを嫌いなことからきたのだとか。マヨネーズが嫌いなんて珍しいですね！今度克服させたいものです！

2つ目は私の関係…。なんとキューピー宅は私の第二の家(?)で、集合が早い活動の時はお家に泊めてもらっています。多い時は月3でお泊まり会です。宮古の活動やキャンプの前は2人で早起きして一緒に本町まで向かうので、寝坊しない

ように協力合っています！

3つ目、実は青森県民なキューピーリーダー。お泊りに行くと実家から送られてきたりんごを切ってくれます！たまに出る青森森に注意して話してみてください(笑)

まだまだ秘密はありますがこの辺にして、次は「キューピーすごいポイント」の紹介です！背の高いところやギャップがあるところ、作業が丁寧なところがよいです！あと野菜に詳しい。字もきれいで、アドベンチャーのしおりを書くのも素敵ですよ！おのしおりだけに！！(??)

…謎のギャグが飛んで冷え切ったところでおしまいになりたいと思います。今後の活動も頑張りたいと思いますので、ニョッキもキューピーもみなさんよろしくお祈りします！



左がニョッキリーダー、右がキューピーリーダーです！←

## 表紙の写真から



ぷらいむ・たいむ向中野校にて、ピンクシャツデー当日の一枚！

感謝  
(2017年度2月27日現在)  
五十音順・敬称略

### ●維持会費

- 秋永光里、浅沼慧、有我啓作、飯島隆輔、家村知佳、池田二郎、石崎真珠、石渡隆司、戸貞文、伊藤幸美、伊藤康一、伊藤真太郎、伊藤愛美、伊藤みどり、井上浩太郎、井上修三、井上優子、今松桂下、上中優奈、魚住英昭、鶴岡谷三千代、江崎安美、遠藤隆、遠藤昌樹、及川茂夫、及川忠生、大澤未来、大澤麗二、小宮高志、小宮真紀子、岡田虎治、尾形裕一、小川明佑、小川嘉文、角谷晋次、小澤聡、押切梓、小畑孝子、重石桂司、小山憲彦、角谷晋次、川坂保宏、柳田穂慧一、菊地弘生、北田アユ子、君塚彩、工藤あさひ、工藤直子、工藤泰、熊谷圭祐、熊谷映希、熊谷力實、小林茂之、守林靖一、尾野春代子、今野聖子、今野健男、齋藤之彦、斎藤恒夫、佐藤翔、清水弘、清水治彦、菅原省司、杉田良、とらぎYMCA、理事長、藤澤孝、長岡和義、長岡正志、中島敬泰、中原廣澄、中村圭、名古屋恒彦、南原良哉、日本基督教団 宮古教会、花田隆、演塚有史、演塚れい子、早坂春樹、演塚牧人、演塚真美、演塚有史、演塚れい子、早坂春樹、林辰也、原寛、東森樹、人見晃弘、廣川野子、廣川健太郎、廣川はるな、深澤多紀子、深澤秀男、藤野陽平、古澤伸、松尾聡子、増田隆、水田隆、水野鶴夫、光永尚生、宮崎幸雄、守口咲良、守下昌隆、森山幹大、山口貴伸

### ●書附金

- 池田二郎、伊藤克見、伊藤真一郎、伊藤みどり、今松桂下、鶴岡谷三千代、遠藤隆、遠藤昌樹、及川茂夫、大澤未来、大間浩二、角谷晋次、北田アユ子、熊谷圭祐、熊谷力實、尾野春代子、佐藤翔、高瀬裕、中原廣澄、熊谷和義、名古屋恒彦、南原良哉、早坂春樹、花田隆、演塚れい子、原寛、人見晃弘、光永尚生、ワイズメンズクラブ 東北日本区

### ●東日本大震災被災地支援基金・献品

- 3・11チャリティコンサート実行委員会、大坂YMCA、大阪YMCA、サンホーム、社会福祉法人イエス、団友愛幼児園、私立捜真小学校、馬場 一郎、日本基督教団城西教会、ワイズメンズクラブ西日本区

### ●根本地震・YMCA救援・復興基金

- 家村知佳、石崎真珠、伊藤真一郎、伊藤真太郎、小畑孝子、北田アユ子、君塚彩、熊谷聖希子、熊谷力實、尾野春代子、尾野輝紗、清水弘、菅原、名古屋恒彦、増田隆、松尾聡子、吉田航平、吉田美波

### ●根本地震被災YMCA支援基金

- 浅沼慧、浅沼美希、家村知佳、石崎真珠、伊藤真一郎、伊藤愛美、井上修三、岩井和巳、鶴岡谷三千代、遠藤昌樹、大間浩二、小笠原真紀子、尾形裕一、小川明佑、小川嘉文、角谷晋次、菊地弘生、工藤泰、佐々木千帆子、小宮嘉文、川佐波子、立花良、日本基督教団内丸教会、日本基督教団宮古教会、演塚真美、演塚有史、早坂春樹、女坂乃々華、盛岡YMCAリーダー会、もりおかワイズメンズクラブ、四元尚志、吉田雅太郎

### ●国際協力基金

- 浅沼慧、浅沼美希、阿部未来、家村知佳、石崎真珠、伊藤克見、伊藤真太郎、岩城恵、上中優奈、遠藤立規、遠藤冬樹、大崎大太、小宮原真紀子、尾形裕一、小川明佑、小川嘉文、君塚彩、電脚忠彦、工藤悦子、熊谷聖希子、熊谷力實、尾野春代子、斎藤恒夫、菅原、鈴木克実、滝川依波子、高橋来和、高橋千鶴子、立花良、中村圭一、布川雅樹、演塚れい子、早坂春樹、史、演塚れい子、早坂春樹、早坂春樹、東森樹、フジック、リーマン岩手株式会社、松井美樹、守下昌隆

